

旭中央病院・宮本さんを職場に戻し



地域医療を再生させる会 ニュース

罰せられるべきは吉田病院長

第2回旭行動にも大きな反響

宣伝隊に多くの市民の声

8月3日(金) 13:30
より、第2回旭行動に取り組み、松本会長はじめ建交労、SST、年金者組合、自治労連、通信労組の仲間、そして当該労組と本人など16名が参加し、宣伝カーでの流しと訴え、地域・患者さんへのピラマキをやりきりました。

松本会長は宣伝カーで「宮本さんは、払うべき賃金を払えと病院に求めただけで、何も悪いことはしていないのに吉田病院長に解

当日は、前回の事務部長との面会の際に予告したとおり、宮本さんの首を切った張本人である、吉田病院長を表敬訪問しました。

しかし、院長室には不在だったため、自宅にも訪問しましたが、残念ながら雨戸は閉め切られ、日常的に生活している様子もつかえず、まったく反応が無かったため、ピラと名刺をポストに入れるにとどめました。

雇われた。一方で、法的にも払うべき賃金を払わずに

しらばっくれているのは吉田病院長だ。本来罰せられるべきは、吉田病院長の方だ」と訴えました。

宣伝カーや患者さんへのピラマキ隊には、「最近かなり難くなっている」「今の病院長は代えるべきだ」「こういうピラで教えてもらえないと、病院がどうなっているのかよく分からない」

「最近、簡単に他の病院に回される」等、多くの市民

留守も訪問する表敬

吉田病院長は、団体交渉にも参加していません。しかし、宮本さんの首を不当にも切った、まさに張本人です。団交にも参加しない、会ともあわないでは済まされません。

留守も訪問する表敬

団交に参加するか、私たちが会うまで、訪問活動を続けます。

病院長



民や患者さん声が寄せられました。また、宣伝カーの演説を立ち止まって聞いて



いた青年は「自分も仕事を探しているところ。訴えにあるように、働く者の権利を守る事は大事というのはその通りだ」と最後まで聞いて拍手をしてくれました。第2回旭行動も、患者さんや住民のみならずと共同をを広げ、テララメを続ける旭中央病院の一部経営管理者を追い詰める宣伝行動となりました。

明智市長に病院指導を要請

7月23日には、明智市長に対し、会結成の挨拶と病院への指導を要請しました。

残念ながら、明智市長は「日頃から病院に関わっているわけでもない。病院のことは病院に任せて

いる」と、無責任な姿勢を示しました。

会は「市長は、事業管理者の任命権者であり、市民の命と健康を守る責任もある。その立場で、病院を強く指導してもらいたい」と要請しました。

「ピラを見て感激」元職員から会に電話

「自宅のポストに入っていたピラを見て、今の旭中央病院の状態を真面目に憂いてくれる団体があると知って感激した」と、元職員から会に電話がありました。この方は「今の病院長になってから、諸橋先生の『すべては患者のために』という理念が失われている。今の病院長は辞めさせて、市や県にもしっかりと責任を取らせるべき」と憤慨し、「自分なりに協力します。頑張ってください」との嬉しい申し出もいただきました。